

## ◆ 今週のコメント

- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、7.54(309例)で、過去5年平均値(7.43)を上回っています。年齢階級別割合では、1歳が最も多く14.2%(44例)で、0歳～5歳で55.7%(172例)を占めています。
- ・ 水痘の定点当たり報告数は、1.22(50例)です。第9週から増加が続いており、年齢階級別割合では、1歳が最も多く42.0%(21例)を占めています。
- ・ RSウイルス感染症の報告数は、4例(0.10)で、本年に入って第8週を除くすべての週に報告があります。

## ◆ 今週のトピックス:<インフルエンザ>

- ・ 今週の定点当たり報告数は、10.24(696例)で、注意報の基準である10.0を依然として上回り、多い状態が続いています。  
 詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数報告の感染症

- ・ 二類:結核 2例(肺結核 2例, 肺外結核 なし, 無症状病原体保有者 なし), (喀痰塗抹陽性 1例)  
 【1月以降の累積報告数 71例(肺結核54例, 肺外結核 11例, 無症状病原体保有者 6例), (喀痰塗抹陽性 20例)】

### 定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	10.24	696
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	7.54	309
	② 水痘	1.22	50
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.56	23
	④ 突発性発しん	0.27	11
	⑤ 咽頭結膜熱	0.12	5
眼科	流行性角結膜炎	0.40	4

### 病原体情報

(検体名は、紙面の都合上、咽頭ぬぐい液をNP、糞便をFC、髄液をSF、尿をURと略す。)

検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名	検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名
コクサッキーウイルスA6型(3)	かぜ症候群(第50週, 第52週×2)	NP×3	アデノウイルス5型(1)	かぜ症候群(第52週)	NP
コクサッキーウイルスA9型(1)	発疹症(第51週)	NP	A群溶血性レンサ球菌(4)	かぜ症候群(第52週, 第4週) インフルエンザ(第2週, 第5週)	NP×4
ポリオウイルス3型(1)	感染性胃腸炎(第52週)	FC	B群溶血性レンサ球菌(1)	かぜ症候群(第4週)	NP
インフルエンザウイルスAH1型(5)	インフルエンザ(第2週, 第5週×3) 不明・記載なし(第4週)	NP×5	肺炎球菌(2)	リンパ節炎(第51週) かぜ症候群(第51週)	NP×2
インフルエンザウイルスAH3型(2)	インフルエンザ(第2週, 第4週)	NP×2	インフルエンザ菌b型以外(2)	かぜ症候群(第3週×2)	NP×2
ノロウイルスGII(3)	感染性胃腸炎(第51週×3)	FC×3	マイコプラズマ・ニューモニエ(3)	かぜ症候群(第51週, 第3週×2)	NP×3
アデノウイルス2型(1)	かぜ症候群(第51週)	NP			

### 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<インフルエンザ>

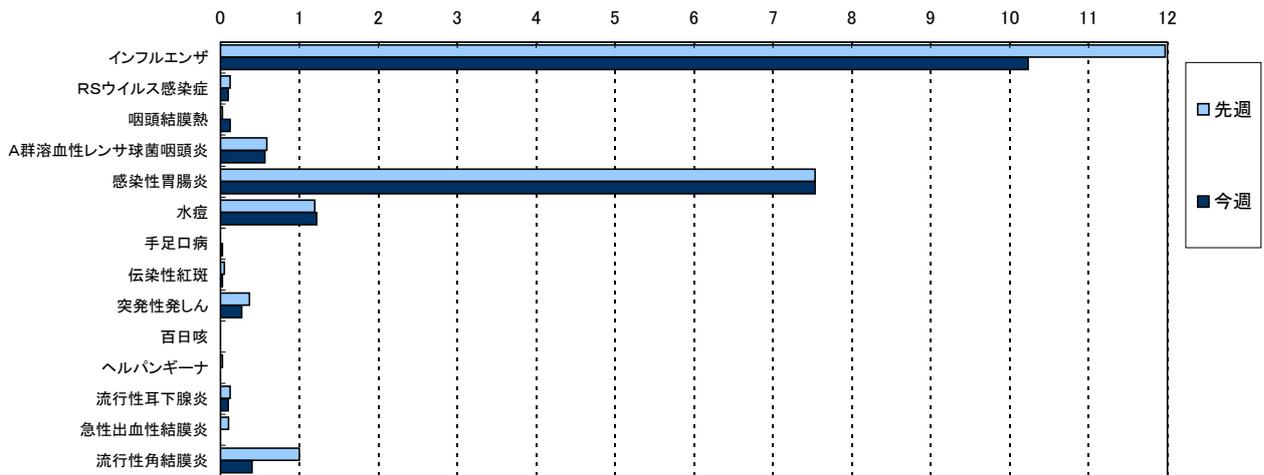
(注) 京都市のデータは、平成21年3月26日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。

病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

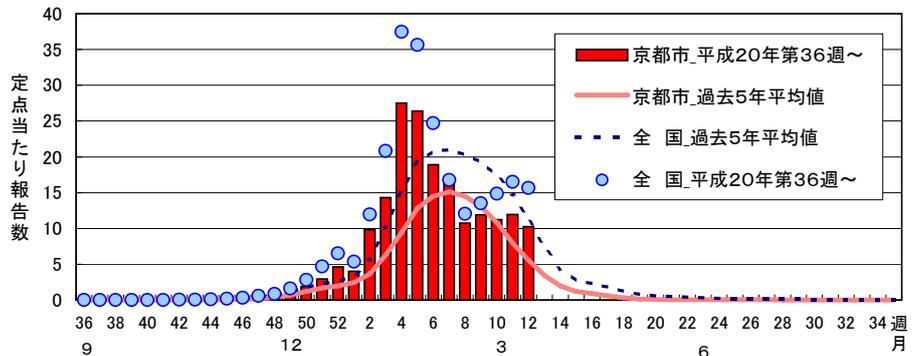
# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第12週)と先週(第11週)の定点当たり報告数の比較



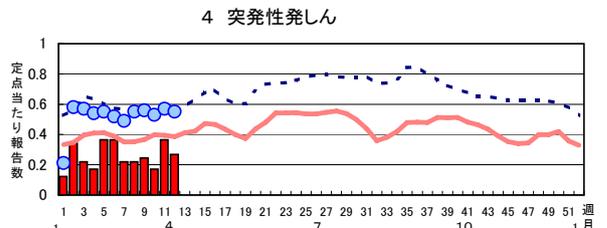
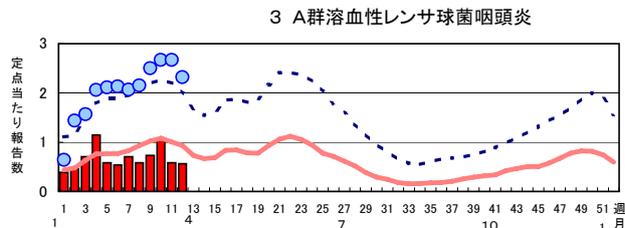
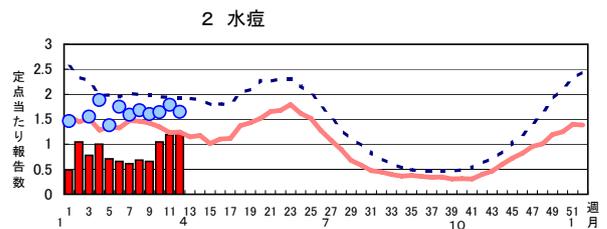
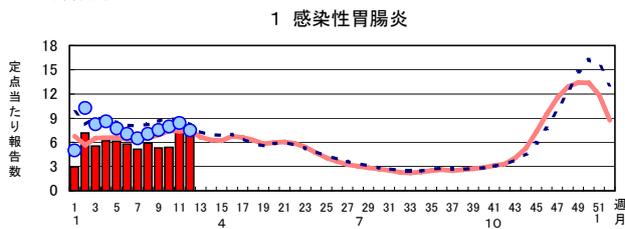
## 2 インフルエンザの推移

週	報告数(例)
第8週	730
第9週	810
第10週	765
第11週	814
第12週	696
累積報告数 (第36週以降)	12549

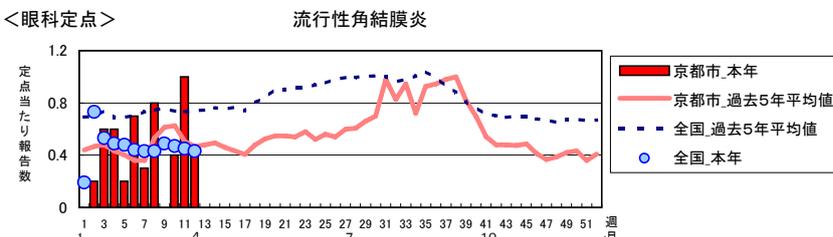


## 3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



# 今週(第12週)のトピックス: <インフルエンザ>

今週の定点当たり報告数は、10.24(696例)で、注意報の基準である10.0を依然として上回り、多い状態が続いています。

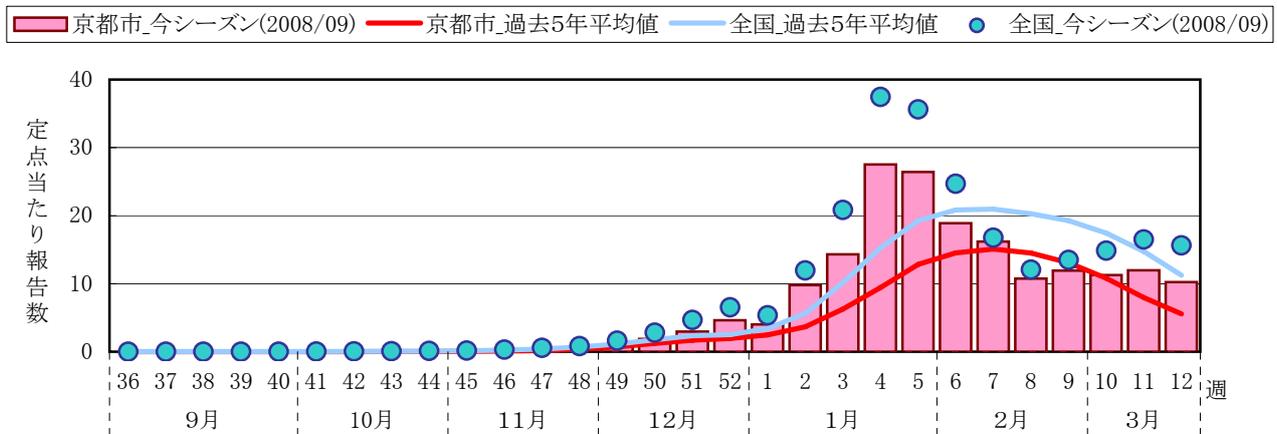
今週は、ピーク週から8週後に当たり、平成11年(1999年)以降の各シーズンのピーク週～8週後の定点当たり報告数の推移と比べてみると、今シーズン(2008/09)は、「4週後」以降横ばいで多い状態が続いています。

年齢階級別割合は、5～9歳が48.4%で最も多く、次いで10～14歳が25.6%となっています。全国でも同様に、5～9歳が47.5%で最も多く、次いで10～14歳が25.6%となっています。

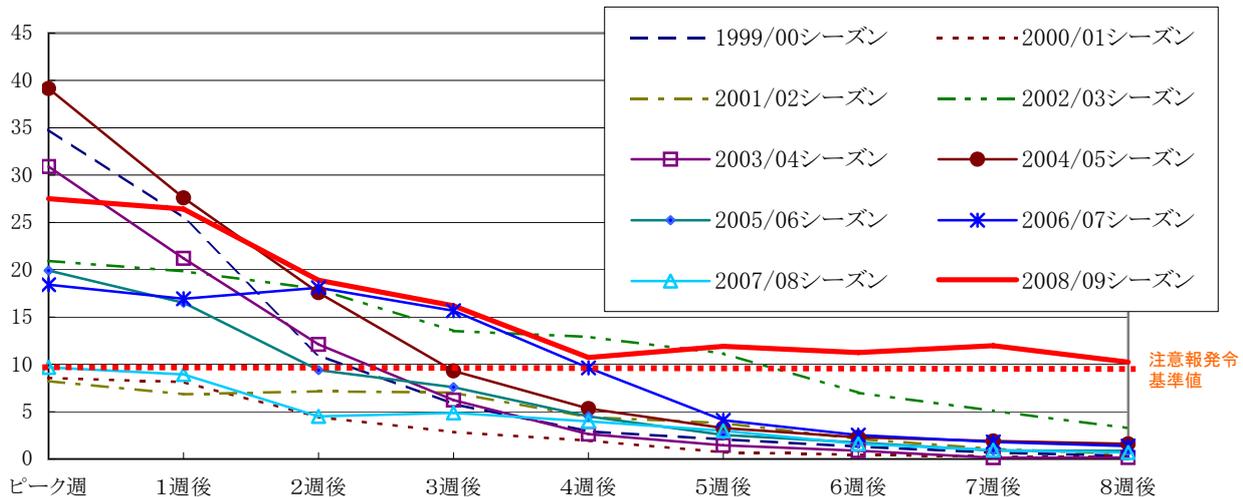
インフルエンザウイルスは、本市では、3月14日～3月27日に、Aソ連型(H1)が1件、B型が5件検出され、B型の検出が増加しており、平成20年9月(第36週)以降の累積報告数は、Aソ連型(H1)が19件、A香港型(H3)が5件及びB型が8件です。また、全国でも同様に、B型の検出が増加しており、Aソ連型(H1)が2505件、A香港型(H3)が1195件、B型が636件です。

国立感染症研究所感染症情報センターのホームページに、都道府県別の最新のインフルエンザウイルス検出情報が掲載されています。(http://idsc.nih.go.jp/iasr/prompt/graph-kj.html)

本市及び全国の定点当たり報告数の推移(平成20年第36週～平成21年第12週)



平成11年(1999年)以降の各シーズンのピーク週～8週後の定点当たり報告数の推移



年齢階級別割合

